

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適当と思われるものを選び、正確に記入すること。

現金	当座預金	普通預金	定期預金	売掛金
従業員立替金	未収入金	手形貸付金	差入保証金	建物
支払手形	手形借入金	未払金	従業員預り金	資本金
売上	受取手数料	支払家賃	支払手数料	修繕費
租税公課	旅費交通費	支払利息	固定資産売却損	損益

- 営業に用いている建物の改良・修繕を行い、代金 ¥8,000,000を、小切手を振り出して支払った。支払額のうち ¥5,500,000は建物の価値を高める資本的支出であり、残額は機能維持のための収益的支出である。
- 決算日に売上勘定の貸方残高 ¥50,000,000を損益勘定に振り替えた。
- 日商銀行から ¥5,000,000を借り入れ、同額の約束手形を振り出し、利息 ¥80,000を差し引かれた残額が当座預金口座に振り込まれた。
- オフィスとしてビルの1部屋を1か月の家賃 ¥200,000で賃借する契約を結び、1か月分の家賃、敷金(家賃2か月分)、および不動産業者への仲介手数料(家賃1か月分)を現金で支払った。
- 従業員が出張から戻り、下記の報告書および領収書を提出したので、本日、全額を費用として処理した。旅費交通費等報告書記載の金額は、その全額を従業員が立て替えて支払っており、月末に従業員に支払うこととした。なお、電車運賃は領収書なしでも費用計上することにしている。

旅費交通費等報告書			
日商太郎			
移動先	手段等	領収書	金額
千葉商店	電車	無	1,400
ホテル日商	宿泊	有	9,000
帰社	電車	無	1,400
	合計		11,800

領 収 書			
日商商事(株) 日商太郎様			
金 9,000円			
但し、宿泊料として			
		ホテル日商	

第2問 (10点)

X2年4月1日に設立された日商株式会社の次の【資料】にもとづいて、下記の間に答えなさい。

[資料]

第1期 (X2年4月1日からX3年3月31日まで)

- 決算において、当期純利益 ¥2,000,000を計上した。
- 第1期には配当を行っていない。

第2期 (X3年4月1日からX4年3月31日まで)

- 決算において、当期純損失 ¥350,000を計上した。
- 第2期には配当を行っていない。

第3期 (X4年4月1日からX5年3月31日まで)

- 6月25日に開催された株主総会において、繰越利益剰余金残高から次のように処分することが決議された。
 - 株主配当金 ¥100,000 配当に伴う(①)の積立て ¥10,000
 - 6月28日に、株主配当金 ¥100,000を普通預金口座から支払った。
 - 決算において、当期純利益 ¥1,600,000を計上した。

問1 第2期の決算において、損益勘定で算定された当期純損失 ¥350,000を繰越利益剰余金勘定に振り替える仕訳を答えなさい。勘定科目については、【語群】の中から選択すること。

問2 第3期における繰越利益剰余金勘定の空欄①～④に入る適切な語句または金額を答えなさい。①と②については、【語群】の中から選択すること。

繰越利益剰余金					
6/25 未払配当金	100,000	4/1 前期繰越	(④)		
〃 (①)	10,000	3/31 () ()			
3/31 (②) (③)	()				

【語群】

損益 次期繰越 普通預金 利益準備金 資本金 繰越利益剰余金

第3問 (30点)

次の(1)合計試算表と(2)諸取引にもとづいて、答案用紙のX8年5月31日の合計試算表と売掛金および買掛金の明細表を作成しなさい。

(1) X8年5月26日の合計試算表

合計試算表		
X8年5月26日		
借 方	勘 定 科 目	貸 方
977,500	現 金	520,000
6,740,000	当 座 預 金	4,520,000
3,300,000	売 掛 金	2,600,000
430,000	繰 越 商 品	
400,000	差 入 保 証 金	
1,200,000	備 品	
1,900,000	買 掛 金	2,800,000
40,000	前 受 金	50,000
	所 得 税 預 り 金	40,000
	貸 倒 引 当 金	20,000
	備 品 減 値 償 却 累 紋 額	150,000
	資 本 金	2,500,000
	繰 越 利 益 剰 余 金	500,000
	売 上	6,300,000
3,500,000	仕 入	
500,000	給 料	
400,000	支 払 家 賃	
200,000	支 払 手 数 料	
92,500	発 送 費	
320,000	水 道 光 熱 費	
20,000,000		20,000,000

(2) X8年5月27日から31までの諸取引

- 27日 売 上：奈良商店 ¥80,000(手付金と相殺 ¥30,000、掛け ¥50,000)。発送費 ¥1,000(当社負担現金払い)。
 和歌山商店 ¥50,000(全額掛け)。発送費 ¥800(当社負担現金払い)。
- 給料支払：支給総額 ¥500,000、所得税預り金 ¥40,000。残額を当座預金口座から支払い。
- 28日 仕 入：長崎商店 ¥60,000(全額掛け)。引取運賃 ¥500(当社負担現金払い)。
 高知商店 ¥40,000(全額掛け)。
 水道料金支払：¥25,000(当座預金口座より引き落とし)。
 小切手振出：¥90,000(当座預金口座より現金引き出し)。
- 29日 売 上：奈良商店 ¥70,000(全額掛け)。発送費 ¥1,200(当社負担現金払い)。
 和歌山商店 ¥55,000(手付金と相殺 ¥20,000、掛け ¥35,000)。発送費 ¥1,000(当社負担現金払い)。
- 仕入返品：28日高知商店からの仕入分 ¥40,000、品違いによりすべて返品。発送代金 ¥700は着払いの先方負担とした。
- 30日 仕 入：長崎商店 ¥38,000(全額掛け)。引取運賃 ¥700(当社負担現金払い)。
 高知商店 ¥40,000(全額掛け)。
- 31日 電気料金支払：¥80,000(当座預金口座より引き落とし)。
 売掛金回収：奈良商店 ¥240,000(当座預金口座に入金)。和歌山商店 ¥130,000(当座預金口座に入金)。
- 買掛金支払：長崎商店 ¥190,000(当座預金口座から)。高知商店 ¥300,000(当座預金口座から)。
 手付金受取：奈良商店から商品 ¥300,000の注文を受け、手付金 ¥60,000の当座預金口座への入金を確認した。

第4問 (10点)

金沢商事株式会社の次の【資料】にもとづいて、下記の間に答えなさい。なお、商品売買取引の処理は3分法により行っている。

[資料] X8年7月中の取引

- 1日 備品 ¥ 870,000を購入し、引取運賃 ¥ 30,000を含めた合計額を、小切手を振り出して支払った。
- 10日 商品 ¥ 350,000を仕入れ、注文時に支払った手付金 ¥ 50,000を差し引いた残額を掛けとした。
- 16日 売掛金 ¥ 90,000を現金で回収した。
- 28日 商品 ¥ 800,000を売り上げ、代金のうち ¥ 50,000は現金で受け取り、残額は掛けとした。
- 31日 月次決算処理のひとつとして、7月1日に購入した備品について、残存価額をゼロ、耐用年数を5年とする定額法で減価償却を行い、減価償却費を月割で計上した。

問1 1日、10日および16日の取引が、答案用紙に示されたどの補助簿に記入されるか答えなさい。なお、解答にあたっては、該当するすべての補助簿の欄に○印を付すこと。

問2 28日の取引について、入金伝票を次のように作成したとき、答案用紙の振替伝票を作成しなさい。なお、3伝票制を採用している。

入金伝票	
科目	金額
売掛金	50,000

問3 31日に計上される減価償却費の金額を答えなさい。

第5問 (30点)

当社(会計期間はX7年4月1日からX8年3月31日までの1年間)の(1)決算整理前残高試算表および(2)決算整理事項等にもとづいて、下記の間に答えなさい。なお、消費税の仮受け・仮払いは、売上時・仕入時のみ行うものとし、(2)決算整理事項等の6.以外は消費税を考慮しない。

(1) 決算整理前残高試算表

借方	勘定科目	貸方
2,129,000	現金	
4,615,000	普通預金	
6,435,000	売掛金	
400,000	仮払金	
2,475,000	仮払消費税	
650,000	仮払法人税等	
1,800,000	繰越商品	
4,500,000	備品	
3,000,000	貸付金	
	買掛金	4,620,000
	仮受金	35,000
	仮払消費税	4,128,000
	貸倒引当金	52,000
	借入金	1,000,000
	備品減価償却累計額	1,350,000
	資本金	10,000,000
	繰越利益剰余金	2,109,000
	売上	41,280,000
	受取利息	90,000
24,750,000	仕入	
135,000	発送費	
2,400,000	支払家賃	
350,000	租税公課	
11,025,000	その他の費用	
64,664,000		64,664,000

(2) 決算整理事項等

1. 仮受金はかつて倒産した得意先に対する売掛金にかかる入金であることが判明した。なお、この売掛金は前期に貸倒処理済みである。
2. 当社では商品の発送費(当社負担)について、1か月分をまとめて翌月に支払う契約を配送業者と結んでいる。X8年3月分の発送費は ¥10,000であったため、期末に費用計上する。
3. 売掛金の期末残高に対して1%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
4. 期末商品棚卸高は ¥1,765,000である。
5. 備品について、残存価額をゼロ、耐用年数を10年とする定額法により減価償却を行う。
6. 消費税の処理(税抜方式)を行う。
7. 貸付金はX7年12月1日に期間1年、利率年3%の条件で貸し付けたものであり、利息は貸付時に全額受け取っている。そこで、利息について月割により適切に処理する。
8. 仮払金はX8年4月分と5月分の2か月分の家賃がX8年3月28日に普通預金口座から引き落とされたものであることが判明した。そこで、家賃の前払分として処理する。
9. 法人税等が ¥850,000と計算されたので、仮払法人税等との差額を未払法人税等として計上する。

問1 答案用紙の決算整理後残高試算表を完成しなさい。

問2 当期純利益または当期純損失の金額を答えなさい。

なお、当期純損失の場合は金額の頭に△を付すこと。

解答は、すべて答案用紙に記入して必ず提出してください。

3級

2020年度
第156回簿記検定試験
問題用紙

(午前9時開始 制限時間 2時間)

(2020年11月15日(日)施行)

日本商工会議所
各地商工会議所

受験者への注意事項

1. 答案用紙は、持ち帰りできませんので必ず提出してください。持ち帰った場合は失格となり、以後の受験をお断りする場合があります。
2. 答えは、定められたところに、誤字・脱字のないよう、ていねいに書いてください。
3. 答案の記入にあたっては、黒鉛筆または黒シャープペンシルを使用してください。